

# 「トンボー」と音楽家たち

## 第I部：フランス・バロックのトンボー

2015年9月16日(水) 11:00～  
ノワ・アコルデ 音楽アートサロン  
講師、チェンバロ：三島 郁

### 1. フランスの「トンボーTombeau」

16～17世紀初頭：フランス文学

哀悼詩：地位の高い富裕な者（パトロン、あるいは英雄）の死の折りに短い詩、詩集

不滅の名声

弔辞、追悼演説など葬儀そのものに結び付く

「オルフェウス」のモチーフを使ったオードやソネット

当時のヨーロッパにおける死生観 (cf. ペストの流行)

死にあたっての心構えを説いた書『アルス・モリエンディ Ars moriendi 往生術』(15世紀前半)

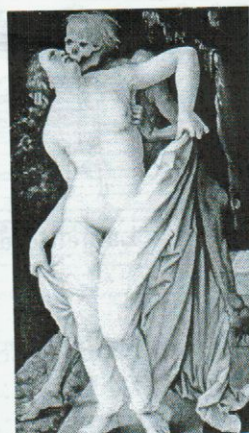
死の普遍性を説く絵画である『死の舞踏 Danse Macabre』

モチーフ「メメント・モリ Memento mori (死を想え)」

→「墓」：直接死を喚起するタイトル



ミヒャエル・ヴォルゲムート  
《死の舞踏 La Danse Macabre》(1493)



ハンス=バルドゥング・グリーン  
《死と乙女 Der Tod und die Frau》(1517)



コリネリス・ド・ヘーム《ヴァニタス：楽器のある静物画 Vanitas Still-Life with Musical Instruments》(c.1661)